

【ポスター発表】

住民参加型地域福祉計画の策定に対する参加者による評価

○徳島大学大学院 柳沢志津子 (4463)

白山靖彦 (徳島大学大学院・4973)

キーワード：住民参加地域福祉計画 市民会議 住民参加

1. 研究目的

平成12年(2000年)の社会福祉事業法等の改正により、社会福祉法のなかに新たに地域福祉計画が規定された。地域福祉計画は、各地方自治体が地域住民の意見を反映させながら策定するもので、今後の地域福祉を総合的に推進する上で大きな柱になると考えられている。その策定にあたっては、地域住民や関係団体・組織が、計画策定の段階から主体的に参画できる体制づくりが必要とされる。地域福祉計画に住民が参加する目的は、第一に各地域の生活課題の抽出、要望の集約にあるが、加えて住民の地域行政への参加意識の醸成が想定される。T県A市では、住民・行政・社協の3者が、市域における福祉課題と社会資源に関する情報共有と地域福祉推進の方向性について相互理解を図る「住民参加型地域福祉計画の策定」を構想し、住民ボランティア、市職員及び市社協職員で構成する「市民会議」を設置し、市全域で「市民会議」主導の「住民座談会」を実施した。社会福祉法施行から19年が経過し、これまで数多くの地方自治体で住民参加による地域福祉計画策定の試みがなされてきた。しかしながら、地域福祉計画策定が住民意識にどのような影響を与えたのか、「住民参加意識の醸成」に関する効果について十分な検討がされていないのが現状である。

2. 研究の視点および方法

本研究は、T県N市が地域福祉計画策定の中で配置した「市民会議」に対して参加者がどのように評価したのか、その検証を試みた。調査はT県A市で地域福祉計画等策定時の「市民会議」に応募した住民及び市・市社協職員82名を対象とし、地域福祉計画策定前後の2016年12月、2018年3月の2つの時期に質問紙調査を実施した。調査は、対象者に無記名自記式調査票の記入を依頼しその場で回収した。調査票の回収率は100%であった。調査項目は、①年齢、性別、居住歴などの属性、②「市民会議」の評価(計画策定前調査では期待する効果、事後調査では得られた効果)とした。「市民会議」の評価は、先行研究を参考に16項目に対して「非常にそう思う」から「全くそう思わない」までの5段階で回答を求めた。分析は、地域福祉計画策定の期間「市民会議」に最後まで参加した65名を対象として、「市民会議」参加前後の評価の差をWilcoxonの符号付き順位検定で分析した。有意水準は0.05未満とし、統計解析にはIBM SPSS Statistics ver.25を使用した。

3. 倫理的配慮

調査を始めるにあたり研究依頼書の中で研究内容、倫理的配慮を明記し、調査票配布時に口頭で読み上げ、調査対象者から文書による同意を得た。本研究は、徳島大学病院臨床研究倫理審査委員会による承認を受けた（承認番号 2722）。

4. 研究結果

T県A市では、地域福祉計画の策定を「住民参画型方式」として「市民会議」を設置した。「市民会議」は、当初、公募市民、市・市社協職員の82名で構成され、最終的に65名が最後まで参加した。2016年12月から2018年3月までに「市民会議」を全9回開催し、研修を重ねたのち、担当する地域で開かれる座談会で市民会議委員にはファシリテーターとしての役割を担った。「住民座談会」は、地区社協を単位とした13地区で5回ずつ開催し、KJ法を用いたワークショップを行い、地域の魅力発見、福祉課題、解決方法等について意見交換を行った。「住民座談会」が終了した後、その中で抽出された意見を「市民会議」の中で検討し、その情報に基づき、地域福祉計画・活動計画が策定された。

「市民会議」の参加者は、平均年齢が47.06(±18.16)歳、性別は男性31名(47.0%)、女性35名(53.0%)、現住所の平均居住歴が23.03(±18.89)年であった。参加者が事前に「市民会議」に期待した項目は、「人の役に立つこと」「人間関係の広がり」「住民やボランティアからの学び」(得点平均:1.81,1.85,1.85)の順であった。参加後、「市民会議」において経験した項目は、「住民やボランティアからの学び」「地域貢献意識の醸成」「思いやり意識の醸成」(得点平均:2.05,2.37,2.43)が高かった。参加前の期待と実際の経験の評価は、すべての項目で肯定的ではあったが、参加前後の評価得点は下降していた。期待と経験の得点差が少ない項目は、「住民やボランティアからの学び」「地域貢献意識の醸成」「活動が楽しめた」(得点平均の差:-0.20 P=0.135,-0.39 P=0.025,-0.44 P=0.001)であり、期待と経験の得点差が大きかった項目は、「人の役に立つこと」「仲間づくり」「他者への対応の好転」(得点平均の差:-0.96 P=0.000,-0.89 P=0.000,-0.72 P=0.000)であった。

5. 考察

T県A市の住民参加型地域福祉計画の策定において設置した「市民会議」は、参加者には概ね良好に評価していた。なかでも、住民からの学びの経験や地域貢献意識や思いやり意識の変化を経験していることから、「参加意識の醸成」を果たしたといえる。しかし今回の調査では、「市民会議」の評価は、事前の期待が大きく、経験後の評価得点はすべての項目で下降していた。特に、参加者の多くが、人間関係の広がりや仲間づくりを期待していたにもかかわらず、他の項目と比較して期待と経験の得点差が大きかった。今回の「市民会議」では、人間関係の構築の観点で課題が残されたといえる。